

## 「早春の“さそり座”」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

さそり座は、夏の星座の代表といえる。しかし、さそり座の全景を撮影するのは容易ではない。さそり座は、本州では南の地平線に低い星座で、もともと観測しにくい。特に尻尾のカーブを描いた部分は、南の地平線に少しでも障害物があると、写らない。更に夏は天気が悪かったり、シーイング(主として大気の透明度)が悪い。更に、夜も短いという事情もあり、天体写真の撮影にはあまり適した時期とはいえない。

さそり座を撮影するなら、圧倒的に早春が良い。明け方3時頃には、さそり座が姿を現し、午前4時前後には全景を地平線上に現す。シーイングも夏よりも良く、近くのいて座付近の銀河もよく写る。

今日の未明、午前3時に目覚まし時計をかけて、北軽井沢の雪に覆われたキャベツ畑に、さそり座を見に行った。天気が快晴・・・と思ったら、南～南東にかけて薄い雲がかかっている・・・と思ったら、それは天の川だった。いて座付近は、銀河系の中心方向で、雲と間違えるほど、天の川が明るいのだ。さそり座も、

完全に全貌を地平線上に現していた。東の空には、昇る「夏の大三角」、「みなみのかんむり座」「や座」「いるか座」など・・・氷点下7℃の雪野原で、夏の星座を満喫することができた。



「早春のさそり座」 撮影 ; C. Tanaka  
2015, -3, 21 午前4時前 北軽井沢群高四地区  
高橋 P2 赤道儀使用 18mm 約2分露光  
左下の明るさは、軽井沢の街明り。

